

## NPOらしい飛行とは

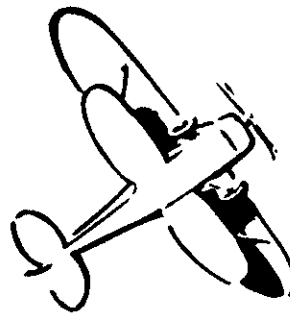
2000年にスタートした「ふくしまNPOネットワークセンター」はどうか離陸の時期にこぎつけたようだ。しかしながら、その行き先や飛行条件などはまだぼんやりしていて、飛行しながら決めていくという危なっかしいところもある。

むかし、私は、飛行(非行ではない)機少年であったことがある。ゴム動力の模型飛行機をずいぶんと作っては、大会に出場して賞をいただいたりしていた。何機かは、気流に乗って手元には戻らず、どこかへ消えていってしまったものもある。小さなエンジン機もいたずらした。そして、調整の不備から墜落させてしまったものも多い。ゴム動力のものが墜落した時には、だましまし何とか修復までこぎつけられるが、エンジン機のクラッシュの惨状は、目も当てられなかった。そのせいか、私の心の片隅には飛行機は怖いものというイメージがある。ある時、超軽量のゆっくりプロペラがまわって悠然と宙を舞うフェザープレーンを見て心が躍ったことがある。目的ではなくゆったりと飛行して、そして失敗しても破壊的ダメー

理事長 星野 珉二

ジを受けそうにない。早合点してこれはポストモダン(脱近代)では、とってしまったほどである。

少し脇道に逸れてしまったが、離陸した「ふくしまNPOネットワークセンター」はどのように飛行すべきであろうか。目的を明確にしつつ効率的に飛行し、一日も早く実力を備えて頼られる支援組織になればと思う。おそらくこれは正論なのであろう。他面、NPOが社会変革の組織であるなら、どこかで近代の価値観を超越するような飛行はできないものかと考えてしまったりする。肩肘を張らないで周りの多くの人の思いを受けとめながら、時代の新たなメッセージを発信し、のびのびゆったりスローに、しかししたたかにやるべきことをやっていく、そんな飛行もしてみたいものかと思ったりもする。さあ、どうしましょうか?



## 今、センターがやっていること

常務理事 早川 哲郎

今センターが取り組んでいる委託事業や助成金・補助金による事業を紹介します。

### ●公共施設UD整備指針策定補助業務

福島県の委託事業で、公共施設をユニバーサルデザインの視点から整備する指針づくりのためにワークショップの開催、運営を行っています。

### ●ボランティア・NPOのエンパワーメント支援事業

福島県ボランティア・NPO活動環境整備推進モデル事業として、NPO活動総合ポータルサイト「NPO・sq」の運営、NPOのホームページ無料作成、スキルアップ講座の開催を行っています。

### ●ふくしま情報ステーション管理業務

コラッセふくしま1階にある「ふくしま情報ステーション」を運営しています。

### ●市民活動ナレッジ(知識)マニュアル化事業

福島県緊急経済雇用対策基金事業の補助事業として、講演会録音テープの電子データ化とビデオマニュアル制作を進めています。

### ●NPO運営実例セミナー

公益信託うつくしま基金の助成を受けて、NPO運営の実例を紹介するセミナーを準備中です。

## ★ 事務局は大賑わい ★

事務局 服部 寿実子

季節は12月に入り、なおいっそう寒さを感じてきました。

事務局のコーヒーの消費量が多くなったこの頃、事務局には、新しい顔ぶれが増えました。10月から県のモデル事業としてホームページ上にNPO・市民活動のためのポータルサイト「NPO・sq(スクエア)」を開設することになり、そのスタッフが4人でしたが、11月からはテーブル起こし・ビデオ編集の作業で3人のスタッフが加わり、7人が女性ということで、事務局がとても華やかになりました。

事務局のお近くに来られましたら、ぜひお立ち寄りください。また、「NPO・sq」も一度覗いて掲示板に書き込みをしていってください。



NPO 活動総合ポータルサイト「NPO・sq」  
(<http://www.npo-sq.jp/>)

## 踏み出した後はどうだったのか

### ～パートナーシップ事業②～

理事 山川 充夫

のっぽの手昨年4月号で紹介したパートナーシップ事業、その後は・・・

南福島商店街におけるパートナーシップ事業は、どうだったのでしょうか。今回はパートナーシップ事業発足後の経過を紹介しましょう。

さて福島大学経済学部山川教養演習(1年生20名)は、まちなかでゼミを行うということで出発しましたが、最初の問題は、20名を収容できしかも無料で定期的に借りることができるスペースを南福島に確保できるかどうかということでした。福島市役所杉妻支所なども検討の対象となりましたが、最終的には南福島e-まちづくり実行委員会の方々のご努力と東邦銀行南福島支店長さんのご好意により、東邦銀行南福島支店2階の会議室を使用できることになりました。

南福島での最初のゼミは4月19日に行いました。この時には、まず三浦支店長からは挨拶として東邦銀行の地域貢献が紹介されました。次いで林さん(当NPO理事)から「はじめの一步」が、岸本さんからは南福島で計画している空き缶・空きペットボトルの回収とラッキーチケットによる商店街活性化の戦略が、「飯野町エコステーション」での視察ビデオ放映をはさんで熱く語られました。この時には『福島民報』(2002年4月20日掲載)やTUFによる取材もあり、緊張しつつも是非とも成功させなければという真剣さが、学生の中に漂っていました。

エコステーションの立ち上げにあたっては、やはり資源リサイクルの現状を知る必要があります。南福島の方々の手配により、6月には空き缶・空きペットボトルを分別している福島市リサイクルプラザや生ごみ堆肥の事業化を進める小澤工業などを、学生とともに視察することができました。また7月には国土交

通省福島工事事務所で阿武隈川の水質問題についての講義を受けました。

7月も後半になったところで、エコステーションを立ち上げる日が9月20日(金)に決まり、ゼミ生による立ち上げ支援を求められることになりました。またその宣伝を兼ねて、21日(土)に南福島の杉妻小学校で開催されるバザー祭に「実行委員会と福大生によるエコ展示・ゲームコーナー」を開設することになりました。そのために20名のゼミ生はエコステーション班、地球環境班、リサイクル班、環境ゲーム班など4つに分かれ、8月から9月にかけて夏休みを挟んで準備を自主的に進めました。準備のための軍資金が、幸いなことに南福島の方々から提供されました。

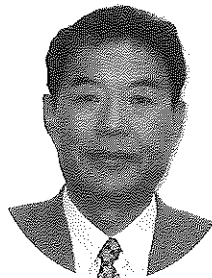
9月21日(土)には、「エコステーションの体験」、「地球環境について」、「福島市ごみの分別のご案内」、「空き缶積みゲーム」、「紙漉き体験」などを学生が自主的に運営されました。その結果は、次の感想などによってもわかります。「エコステーションの開始は午後1時半からだったのに、たくさんの子供が午前中からエコステーションの前に集まり、終了時間の午後3時まで長い列をつくってたくさんの方が参加してくれました」。「エコフェスティバルが成功したかどうかはわかりませんが、小さなところでそれぞれが輝いていたイベントでした」。学生にとっては大変よい経験になりました。

学生が地域活動にかかわることの積極的な意義は、「たかさき活性剤本舗」の事例にみるまでもなく、いくつかありますが、今回特に印象的であったのは南福島の方からの「学生さんと一緒に商店等を回ると、商店主さんが前向きな対応をしてくれるのです」という話でした。こうした学生と地域とのかかわりをNPOがどのように演出できるのか、あるいは地域の受け入れ体制の確立をどうはかるのか、課題はたくさんあります。にもかかわらず、今回の取り組みは、偶然の産物であったとはいえ、協働型のパートナーシップを考えていくうえでは、私にとってもよい経験になったことは確かなことです。

## 新理事自己紹介

ふくしまNPO  
ネットワークセンターの  
理事として

理事 湯田 善典



私は、一昨年春、40年間お世話になりました自動車会社の代表を退任し、今まで地域社会に何も貢献せず、会社人間で過ごしてきました、そんな反省から、園芸教室でお世話になった吾妻公園にボランティアでお手伝いしました。とても気分爽快でした。

その後、二本松の財団法人福島県国際交流協会のセミナーに参加し、NPOについての知識を知り、参加した皆さんの情熱に感動しました。そしてそのワー

キングの中で皆さんが、どのようなNGO、NPOの活動を促進するのか、色々検討され発表しましたが、私は、あらたに法人を創業するよりも、現在設立されている組織は、どんな活動をしているかに興味が湧き、そこでNPO法人ふくしまNPOネットワークセンターを選んで入会させて頂きました。

それから1年経ってから私はもっと仕事の中身について知りたいと思い理事に立候補し承認されたわけです。今後、私がこの法人の理事としての貢献は、非営利の組織のマネジメントとは、つまり明確な目標意識とその遂行手段とのバランス、効率と公正といった基本原理などの知識を早く理解し、行政や他のNPO法人、営利企業とパートナーシップを実現することが私の勤めと考えて居ります。またこの法人が県内の地域社会からあらゆる方面で信頼される、NPO法人の理事となるよう努めて参りたいと思います。宜しくお願いします。